

ヘンデル「メサイア」対訳

曲番号は Peters 版による。Bärenreiter 版では、Sinfonia を Nr.1 とする一方、短い Recitative には番号がつかない。

PART I メシアについての預言とその成就

- .Sinfonia

「神が人々を救う、という預言」

1. Recitative (Tenor) ※ Soprano ver.あり

Comfort ye, comfort ye my people,
saith your God;
speak ye comfortably to Jerusalem,
and cry unto her
that her warfare is accomplished,
that her iniquity is pardoned…※

慰めよ、汝らよ。私の民を慰めよ、汝らよ。
と、あなたたちの神は言う。
汝ら、心地よく、エルサレムに語れ。
そしてエルサレムに向かって叫べ、
“エルサレムの争いは完了(完成)した、
その不正は許された”と。

(イザヤ書 40:1-2)

※イザヤ書 40:2 ではこの後に、for she hath received of the Lord's hand double for all her sins. と続く。

(というのは、彼女はその罪に倍するものを主の御手から受けたからである。) ここまでが cry unto her の内容。

口語訳聖書では主から受けたものは「罪に倍する刑罰」、新共同訳では「報い」と訳されている。

※ ye = 2人称複数主格「汝ら」 ※ saith = say 3人称単数現在形、以下~ th は3単現

The voice of him that crieth in the wilderness,
prepare ye the way of the Lord,
make straight in the desert
a highway for our God.

荒野に叫ぶ者の声とする。
“汝ら、主の道を準備せよ。
我々の神のための大道を、
砂漠の中にまっすぐ作れ。”

(イザヤ書 40:3)

2. Air (Tenor)

Every valley shall be exalted,
and every mountain and hill made low;
the crooked straight, ※
and the rough places plain.

“すべての谷間は高くせよ、
すべての山や丘は低くせよ
曲がった(道)はまっすぐにし、
でこぼこした場所は平らにせよ。”

(イザヤ書 40:4)

※ KJV 原文 and the crooked shall be made straight, and the rough places plain:

3. Chorus

And the glory of the Lord shall be revealed,
and all flesh shall see it together:
for the mouth of the Lord hath spoken it※.

“主の栄光が明示されるだろう。
全ての肉体は、皆一緒にそれを見るだろう。
主の口が、それを語ったからである。”

(イザヤ書 40:5)

※この合唱までが、第1曲最後(イザヤ書 40:3)に出てくる「荒野に叫ぶ者の声」の言葉である。

最後3行目の「主の口が語った」という it はここまでの文脈からすると「主の栄光」かと思われるが、口語訳・新共同訳ともこの次の節からの内容を指しているように訳されている。

※その続くイザヤ書 40:6-8 は、ブラームス「ドイツ・レクイエム」第2楽章の歌詞になった「ペテロ第一の手紙 1:24-25」の引用元である。

(肉体は皆草に等しい... 草は枯れ、花はしぼむ... だが私たちの神の言葉はとこしえに立つ。)

※イザヤ書は、第39章までが BC.8c のイザヤの預言で、第40節以降は BC.6c のバビロン捕囚後の預言者のものとされている。

よって、上の第2~4曲までの歌詞は、バビロンからの帰還と主の栄光の現れを予言したものになっている。

「メシアが来て裁きが行われる、という預言」

4. Recitative (Bass)

Thus saith the Lord the Lord of Hosts:
Yet once a little while, and I will shake
the heavens and the earth,
the sea and the dry land;
and I will shake all nations,
and the desire of all nations shall come.

このように、主、万軍の主は言う。
間もなく、もう一度、私は揺り動かすだろう、
天と地とを、
海と渴いた土地とを。
私は全ての国民たちを揺り動かすだろう。
そして彼らの望むものを到来させるだろう。
(ハガイ書 2:6-7)

※ハガイ書では1行目冒頭の Thus の前に For(と言うのは)がある。 ※ thus=雅語、このように
2行目はハガイ書原文では Yet once, it is a little while, ※ yet=古語、なおその上。 yet once もう一度
※この後、ハガイ書 2:7 は and I will fill this house with glory, saith the Lord of hosts.と続く。
(そして私はこの家=神殿を栄光で満たす、と万軍の主は言う。)

The Lord, whom ye seek
shall suddenly come to His temple,
even the messenger of the covenant,
who ye delight in;
Behold, he shall come, saith the Lord of Hosts.

汝らの求める主は、
突然、彼の神殿にやって来るだろう。
また、汝らの喜びとする契約の使者も
(やって来るだろう)。
見よ、彼が来る、と万軍の主は言う。
(マラキ書 3:1)

※マラキ書 3:1 は次のように始まり上の歌詞に続く。 Behold, I will send my messenger, and he shall prepare the way before me: and ~
(見よ、私は使者を送る。彼は私の前に道を準備する。そして、)

5. Air (Alto)

But who may abide the day of His coming?
and who shall stand when He appeareth?
For He is like a refiner's fire.

しかし彼の来る日に、誰が耐え忍べるだろうか?
彼が現れる時に、誰が立っていられるだろうか?
というのも、彼は精錬する者の火のようだから。
(マラキ書 3:2)

※ for he is like a refiner's fire, and like fullers' soap: というのも彼は精錬する者の火、洗う者の石けんのようだからだ。

6. Chorus

And He shall purify the sons of Levi,
that they may offer unto the Lord
an offering in righteousness.

彼はレヴィの子らを清める。
彼らが正しく、主に対して
捧げ物を捧げられるようにするためである。
(マラキ書 3:3)

※マラキ書 3:3 And he shall sit as a refiner and purifier of silver: and he shall purify the sons of Levi,
and purge them as gold and silver, that they may offer unto the Lord an offering in righteousness.
彼は精錬者、銀を清める者として座り、レヴィの子らを清める。
そして金や銀のように汚れを取り除く。彼らが正しく、主に対して捧げ物を捧げられるようにするためである。

「メシアが人として現れる、という預言」

7. Recitative (Alto)

Behold, a Virgin shall conceive, and bear a son,
and shall call his name Emmanuel:
God with us.

見よ、乙女が身ごもって男の子を産む。
そして彼の名をインマヌエルと呼ぶだろう。
神は我々と共にある、という意味である。
(イザヤ書 7:14、マタイ福音書 1:23)

※イザヤ書 7:14

Therefore the Lord himself shall give you a sign; Behold, a virgin shall conceive, and bear a son, and shall call his name **Immanuel**.

※マタイ福音書 1:23

Behold, a virgin shall be with child, and shall bring forth a son, and they shall call his name **Emmanuel**, which being interpreted is, God with us.

8. Air (Alto)

O thou that tellest good tidings to Zion,
get thee up into the high mountain!
O thou that tellest good tidings to Jerusalem,
lift up thy voice with strength!
lift it up, be not afraid!
Say unto the cities of Judah:
Behold your God !

Arise, shine, for thy light is come,
and the glory of the Lord is risen upon thee.

おお、汝、シオンに良き知らせを語る者よ。
高い山に登れ。
おお、汝、エルサレムに良き知らせを語る者よ。
力強く汝の声を上げよ。
声を上げよ、怖れるな。
ユダの街に向かって言え。
汝の神を見よ。 (イザヤ書 40:9)

立ち上がれ、輝け、汝の光が来たのだ。
主の栄光が汝の上に昇ったのだ。
(イザヤ書 60:1)

※ thou = 2 人称単数主格、thy = 同所有格、thee = 同目的格

※イザヤ書 40:9

O Zion, that bringest good tidings, get thee up into the high mountain; **O Jerusalem, that bringest good tidings,** lift up thy voice with strength;
lift it up, be not afraid; say unto the cities of Judah, Behold your God!

9. Chorus

O thou that tellest good tidings to Zion,
Arise, shine, for thy light is come,
and the glory of the Lord is risen upon thee.

おお、汝、シオンに良き知らせを語る者よ。
(イザヤ書 40:9)
立ち上がれ、輝け、汝の光が来たのだ。
主の栄光が汝の上に昇ったのだ。
(イザヤ書 60:1)

10. Recitative (Bass)

For behold, darkness shall cover the earth,
and gross darkness the people:
but the Lord shall arise upon thee,
and His glory shall be seen upon thee.
And the Gentiles shall come to thy light,
and kings, to the brightness of thy rising.

というのは、見よ、闇が地を覆い
大きな闇が人々を覆うだろう。
しかし主は汝の上に昇り
主の栄光は汝の上に現れるだろう。
身分ある者たちは汝の光に向かって来、
王たちも汝の出現の輝きに向かってくるだろう。
(イザヤ書 60:2-3)

11. Air (Bass)

The people that walked in darkness
have seen a great light:
and they that dwell
in the land of the shadow of death,
upon them hath the light shined.

闇の中を歩いていた人々は
大いなる光を見た。
そして、死の影の地に
住む人々は
自分たちの上に輝く光を得た。
(イザヤ書 9:2)

12. Chorus

For unto us a Child is born,
unto us a Son is given,
and the government shall be upon His shoulder;
and His Name shall be called
Wonderful, Counsellor,
The mighty God, The everlasting Father,
The Prince of Peace.

私たちのために一人の子が生まれた。
私たちに一人の子が与えられた。
統治権が彼の肩にかかるだろう。
そして彼の名は呼ばれるだろう。
驚くべき、指導者、
強力な神、永遠の父
平和の君と。

(イザヤ書 9:6)

「メシア誕生の告知」

13. Pifa (Pastoral Symphony) - Orchestra

14. Recitative & Arioso (Soprano)

<Re>

There were shepherds abiding in the field,
keeping watch over their flocks by night.

羊飼いがいた。
野宿しながら(羊の)群れを夜通し見守っていた。
(ルカ 2:8)

※原文は、And there were in the same country shepherds abiding in the field, (その同じ地において、→ベツレヘムのこと)

<Ar>

And lo! the angel of the Lord came upon them,
and the glory of the Lord shone round about them,
and they were sore afraid.

すると見よ、主の使いが彼らの上に来た。
主の栄光が彼らの周囲を照らした。
羊飼いたちはひどく怖れた。

※ lo = look, sore 古語「ひどく」

(ルカ 2:9)

<Re>

And the angel said unto them,
Fear not: for behold,
I bring you good tidings of great joy,
which shall be to all people.
For unto you is born this day in the city of David,
a Saviour, which is Christ the Lord.

天使は彼らに言った。
恐れるな。見よ。
私は汝らに大きな喜びの良い知らせをもたらす。
それは全ての人々に対するものであろう。
汝らのために、今日、タヴィデの街において
一人の救い主が生まれた。キリスト、主である。
(ルカ 2:10～11)

<Ar>

And suddenly there was with the angel
a multitude of the heavenly host
praising God, and saying:

すると突然、天使とともに
大勢の天軍が現れ、
神を称賛して言った。
(ルカ 2:13)

15. Chorus

Glory to God in the highest,
and peace on earth, good will towards men.

高き所の神には栄光あれ。
地には平和あれ。人々には善意思あれ。
(ルカ 2:14)

※この部分、ラテン語聖書ヴルガータでは Gloria in altissimis Deo, et in terra pax hominibus bonæ voluntatis. つまり Gloria 冒頭の歌詞である。
田川建三氏によるギリシア語聖書の直訳だと、後半は「地には平和。(主の)喜び給う人にあれ」となっている。
ここでルター訳ドイツ語聖書を見てみると、Ehre sei Gott in der Höhe und Friede auf Erden und den Menschen ein Wohlgefallen!
「高き所の神には栄誉あれ、地上には平和を、人々には満足・喜び・適意を。」Wohlgefallen は人のものではなく「主の」満足・喜び・適意
であり聖書関連では「主の是認」という訳もある。ただ、いずれにせよ、「天には栄光・地には平和・人には～」という文脈は、聖書の原文
とは異なっている。KJV 英訳聖書もこのルター訳の文脈を受け継いでいる。いや、それ以上にルター哲学をよりハッキリと反映している、と
さえ言える。ルターはエラスムスの自由意志論に対抗して「奴隸意志論」を説いた。ルターによれば、人は神の力無くしては「善意思」すら
持つことができない。もし人が善意思を持ったとするならば、その人には既に神の力が働いている、というのである。(親鸞が、人が念仏を
唱えようという気持ちになったとすれば、既にその人に阿弥陀仏の力が働いたのだ、と言ったのとソックリな“絶対他力”の考え方である。)
ちなみに聖書学の成果である RSV 英訳では「Glory to God in the highest, and on earth peace among men with whom he is pleased!」である。

「癒やしの司祭としてのメシア」

16. Air (Soprano)

Rejoice greatly, O daughter of Zion!
shout, O daughter of Jerusalem:
behold, thy king cometh unto thee;
He is the righteous Saviour, ※
and he shall speak peace unto the heathen.

大いに喜べ、おお、シオンの娘よ
叫べ、おお、エルサレムの娘よ
見よ、汝の王が汝のもとへやって来る。
彼は正義の救い主、
彼は異教徒たちに平和を語るだろう。
(ゼカリヤ書 9:9～10)

※ゼカリヤ書 9:9 ではこの 1 行に対応する部分は「he is just, and having salvation(彼は正しく、救済を持って)」である。

歌詞では 9:9 のこの後の部分(彼は謙遜してロバに乗ってくる..)は省略され、最後の 1 行は 9:10 の中の 1 文である。

※ゼカリヤ書 9:9-10

9 Rejoice greatly, O daughter of Zion; shout, O daughter of Jerusalem: behold, thy King cometh unto thee:

he is just, and having salvation; lowly, and riding upon an ass, and upon a colt the foal of an ass.

(彼は正義の人、救済を持って、謙遜してロバに乗ってくる。)

10 And I will cut off the chariot from Ephraim, and the horse from Jerusalem, and the battle bow shall be cut off:

(私はエフライムから戦車を絶ち、エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ、

and he shall speak peace unto the heathen: and his dominion shall be from sea even to sea, and from the river even to the ends of the earth.

(彼は異教徒たちに平和を語るだろう。彼の支配は海から海へ、川から地の果てへと及ぶだろう。)

17. Recitative (Alto or Soprano)

Then shall the eyes of the blind be opened,
and the ears of the deaf unstopped.
Then shall the lame man leap as an hart,
and the tongue of the dumb shall sing.

その時、盲者の目は開かれ
聾者の耳は栓が抜かれるだろう。
足の不自由な人は雄鹿のように飛び跳ね
啞の人の舌は歌うだろう。

(イザヤ書 35:5 ~ 6)

18. Duet (Alto & Soprano) or Air(Soprano)

Nr.17 が Soprano の時は Soprano、Alt の時は Duet

<A>

He shall feed His flock like a shepherd,
and He shall gather the lambs with His arm,
and carry them in His bosom,
and gently lead those that are with young.

彼は羊飼いの如く彼の(羊の)群れに食物を与え、
その腕で子羊たちを集め
それらを胸に携えて行き
子を連れた羊を優しく導くだろう。

(イザヤ書 40:11)

<S>

Come unto Him, all ye that labour,
ye that are heavy laden,
and He will give you rest.
Take His yoke upon you, and learn of Him,
for He is meek and lowly of heart,
and ye shall find rest unto your souls.

彼のもとに来たれ、汝ら全ての苦しむ者たちよ、
汝ら重荷を負わされた者たちよ、
彼はあなた方に休息を与えて下さるだろう。
彼の軛を負い、彼に学べ。
彼は柔和で心から謙遜だから。
さすれば汝らは魂の休息を見つめるだろう。

(マタイ 11:28 ~ 29 ※)

19. Chorus

His yoke is easy, His burthen is light.

彼の軛は負い安く、その荷は軽い(からである)。

(マタイ 11:30 ※)

※マタイ 11:28-30 原文

Come unto **me**, all ye that labour and are heavy laden, and **I** will give you rest.

Take **my** yoke upon you, and learn of **me**; for **I am** meek and lowly **in** heart: and ye shall find rest unto your souls.

For **my** yoke is easy, and **my** burden is light.

主語は I(イエス)。30 節が For で始まる。

PART II 受難から勝利へ

「メシアの受難」

20. Chorus

Behold the Lamb of God,
that taketh away the sin of the world.

見よ、世の罪を取り除き給う
神の子羊を。

(ヨハネ 1:29)

※ヨハネ福音書ではバプテスマのヨハネがイエスを見て語った言葉として書かれている。

21. Air (Alto)

He was despised and rejected of men;
a man of sorrows and acquainted with grief.

彼は人々から軽蔑され拒絶された、
不幸の人、悲しみを知る者である。

(イザヤ 53:3)

He gave His back to the smiters,
and His cheeks to them that plucked off the hair;
He hid not His face from shame and spitting.

彼は打つ者に背中をまかせ
髭をむしり取る者には頬を向けてやった。
彼は恥辱と唾棄から顔を隠さなかった。

(イザヤ 50:6)

※イザヤ書 50:6 ではこの3行の各文の主語が I(私) になっている。

22. Chorus

Surely He hath borne our griefs,
and carried our sorrows. ※
He was wounded for our transgressions,
He was bruised for our iniquities;
the chastisement of our peace was upon Him.

確かに彼は我々の悲しみを担った
我々の不幸を携えて行った。
彼は傷ついたのは、我々の罪のためであった。
彼が撃たれたのは、我々の不正のためであった。
我々の平和の(代償としての)懲罰が彼に負わされた。

(イザヤ 53:4 ~ 5)

※イザヤ書 53:4-5 原文

Surely he hath borne our griefs, and carried our sorrows: **yet we did esteem him stricken, smitten of God, and afflicted.**
But he was wounded for our transgressions, he was bruised for our iniquities: the chastisement of our peace was upon him;
and with his stripes we are healed.

歌詞の省略部分※の意味は「今までは、我々は見なしていた、彼は神に打たれ傷つけられて、苦しめられたのだ、と。しかし〜」

23. Chorus

And with His stripes we are healed.

そして彼の傷によって我々は癒やされた。
(イザヤ 53:5)

24. Chorus

All we like sheep have gone astray;
we have turned every one to his own way;
and the Lord hath laid on Him the iniquity of us all.

我らは皆、羊のように道に迷って、
各々、自分勝手な道に向かっていった。
然るに主は、我々皆の不正を、自分に負わせた。
(イザヤ 53:6)

25. Arioso (Tenor)

All they that see Him laugh Him to scorn;
they shoot out their lips, and shake their heads,
saying:

主を見た人々は皆、彼を笑い軽蔑した。
彼らは唇をとがらせて、頭を振って
言った。

(詩編 22:7)

※ KJV 原文 All they that see me laugh me to scorn: they shoot out the lip, they shake the head, saying,

最初の主語は I(主自身)。

→マタイ受難曲 Nr.58a (マタイ福音書 27:40)

26. Chorus

He trusted in God that he would deliver him;
let him deliver him, if he delight in him.

彼は神を信じていた。神が自分を救うだろうと。
神に彼を救わせよ、もし神が彼を好いているなら。
(詩編 22:8)

※ KJV 原文 He trusted on the Lord that he would deliver him: let him deliver him, seeing he delighted in him.
→マタイ受難曲 Nr.58d (マタイ福音書 27:43)

27. Recitative Accompagnato (Tenor)

Thy rebuke hath broken His heart;
He is full of heaviness.
He looked for some to have pity on Him,
but there was no man,
neither found He any to comfort Him.

汝の批難は彼の心を砕いた。
彼は心が重くなった。
主は自分を哀れんでくれる人を探したが、
誰もいなかった。
彼を慰める人も見つからなかった。
(詩編 69:20)

※ KJV 原文 Reproach hath broken my heart; and I am full of heaviness: and I looked for some to take pity,
but there was none; and for comforters, but I found none. この文もダヴィデの一人称

28. Arioso (Tenor)

Behold, and see
if there be any sorrow like unto His sorrow.

見よ、そして考えてみよ、
彼の悲哀のような悲哀があるかどうか。
(エレミアの哀歌 1:12)

※ KJV 原文 Is it nothing to you, all ye that pass by? **behold, and see if there be any sorrow like unto my sorrow,**
which is done unto me, wherewith the Lord hath afflicted me in the day of his fierce anger.
哀歌の作者が、「私の悲哀ほどの悲哀があるか、主が私を懲らしめるほどの痛みがあるか」と歌っている。

29. Recitative Accompagnato (Soprano)

He was cut off out of the land of the living:
for the transgression of Thy people
was He stricken.

彼はこの地の生命から断ち切られた。
汝の民の罪によって、
彼は打たれたのだ。
(イザヤ書 53:8)

※ KJV 原文 He was taken from prison and from judgment: and who shall declare his generation?
for he was cut off out of the land of the living: for the transgression of **my** people was he stricken.
彼は捕らえられ裁きを受けた。誰が彼の世代の人々に明示しただろうか？
彼がこの地の生命から断ち切られた理由を。私の民の罪によって、彼は打たれたのだ。

30. Air (Soprano)

But Thou didst not leave His soul in hell,
nor didst Thou suffer
Thy Holy One to see corruption.

しかしあなたは彼の魂を地獄に捨て置かず
またあなたの聖なるものをして
腐敗を見させておくこともしない。
(詩篇 16:10)

※ KJV 原文 For thou wilt not leave my soul in hell; neither wilt thou suffer thine Holy One to see corruption.
あなたは私の魂を地獄に捨て置くことはなく、またあなたの聖なるものに腐敗を見させることもない。

「昇天」

31. Chorus

<SA>

Lift up your heads, O ye gates,
and be ye lift up, ye everlasting doors,
and the King of glory shall come in.

頭をあげよ、おお、汝ら、門よ。
あげられよ、汝ら、永遠の門扉よ。
栄光の王が入ってこられるだろう。
(詩篇 24:7)

<TB>

Who is this King of glory?

栄光の王とは誰か？

<SA>

The Lord strong and mighty,
the Lord mighty in battle.

強くて権力のある主、
戦いに強い主である。

(詩篇 24:8)

<Tutti>

The Lord of hosts, He is the King of glory.

万軍の主、彼は栄光の王である。

(詩篇 24:10)

※ KJV 詩篇 24:9-10

Lift up your heads, O ye gates; even lift them up, ye everlasting doors; and the King of glory shall come in.
Who is this King of glory? The Lord of hosts, he is the King of glory. Selah.

「聖霊降臨、言葉による贈り物、福音が世界に告げられる」

32. Recitative (Tenor)

Unto which of the angels said He at any time,
Thou art my Son, this day have I begotten Thee?

神は御使たちの誰かに、言ったことがあるか？

「汝は私の子。今日、私は汝を生んだ。」と。

(ヘブライ人への手紙 1:5)

※ KJV 原文 For unto which of the angels said he at any time, Thou art my Son, this day have I begotten thee?

And again, I will be to him a Father, and he shall be to me a Son? (さらにまた、「私は彼の父となり、彼は私の子となるであろう」と。)

33. Chorus

Let all the angels of god worship Him.

全ての神の御使たちに、彼を拝せしめよ。

(ヘブライ人への手紙 1:6)

※ KJV 原文 And again, when he bringeth in the firstbegotten into the world, he saith, And let all the angels of God worship him.

さらにまた、神は、その長子を世界に導き入れるに当って言われた。「～」と。

34. Air (Bass)

Thou art gone up on high,
Thou hast led captivity captive,
and received gifts for men;
yea, even for Thine enemies,※
that the Lord God might dwell among them.

汝は高き所に昇った、
汝は捕らわれた虜を率いて。
人々のための贈り物を、
なおその上、汝の敵のための(贈り物)さえ受けた。
それは、主なる神が彼らの内に住むためである。

(詩編 68:18)

※ KJV 原文 Thou hast ascended on high, thou hast led captivity captive: thou hast received gifts for men; yea,

for the rebellious also, that the Lord God might dwell among them.

上の4行目に相当する部分が「背いた者のための(贈り物)もまた」となっている。

この節は何を言っているのかよくわからない。そこでKJVのネタ本たるルター訳を見てみると、ほぼ同じ意味の訳になっている。

Du bist in die Höhe gefahren und hast das Gefängnis gefangen; du hast Gaben empfangen für die Menschen,
auch die Abtrünnigen, daß Gott der Herr dennoch daselbst bleiben wird.

一方、上記の下線部は、RSV英訳では「receiving gifts among men, even among the rebellious」と、forではなくamongになっている。

つまり「人々の内で、さらに背く者の内でも贈り物を受けた」というのが、本来の聖書の訳だ。

それならばその後の「神がその内に住むためである」にスムーズにつながる。

この誤訳もまたルターに責任がありそうだ。「高き所に昇って人々のための贈り物を受けた」だと、神の恩寵を表す良い詩になるからか？

35. Chorus

The Lord gave the word:
Great was the company of the preachers.

主は言葉を与えた。

伝道者たちの群れは大きかった。

(詩編 68:11)

※ KJV 原文 The Lord gave the word: great was the company of **those that published it**. (主の言葉を発表する者たちの群れ)

36. Air (Soprano)

How beautiful are the feet of them
that preach the gospel of peace,
and bring glad tidings of good things.

何と美しいことでしょう、
平和の福音を宣べ伝える者の足は、
良き事々の嬉しい知らせをもたらす者の足は。
(ローマ人への手紙 10:15)

※ KJV 原文 And how shall they preach, except they be sent? (派遣されずしてどのように伝道しようか。)
as it is written, How beautiful are ~ (～と書かれている通りである)

※この後、次の合唱まで「ローマ書 10:16-18」は次のように話が続く。

しかし、すべての人が福音に聞き従ったのではない。イザヤは、「主よ、だれがわたしたちから聞いたことを信じましたか」と言っている。
したがって、信仰は聞くことによるのであり、聞くことはキリストの言葉から来るのである。しかしわたしは言う、
彼らには聞こえなかったのであろうか。否、むしろ「その声は全地にひびきわたり、その言葉は世界のはてにまで及んだ」。

37. Chorus

Their sound is gone out into all lands,
and their words unto the ends of the world.

その声は全ての地に響き渡り
その言葉は世界の果てまで及んだ。
(ローマ人への手紙 10:18)

「世界はキリスト教を学び取る」

38. Air (Bass)

Why do the nations so furiously rage together?
and why do the people imagine a vain thing?
The kings of the earth rise up,
and the rulers take counsel together
against the Lord and against His anointed.

なぜ諸国民は互いにそうも互いに激怒するのか?
なぜ人々は空しいことを想像するのか?
地上の王たちは立ち上がり、
君主たちは互いに相談し、
主に、そして主が聖別した者に逆らった。
(詩編 2:1-2)

※ KJV 原文 Why do the **heathen** rage, and the people imagine a vain thing? なぜ**異教徒たち**は激怒し、人々は空しい想像をするのか?
The kings of the earth set themselves, and the rulers take counsel together, against the Lord, and against his anointed, **saying**,
地上の王たちは準備し、君主たちは互いに相談して、主と、主が聖別した者に逆らって、**言う**。一次節

39. Chorus

Let us break their bonds asunder,
and cast away their yokes from us.

彼らの鎖を引きちぎり
彼らのくびきを投げ捨てよう。
(詩編 2:3)

※ KJV 原文 Let us break their **bands** asunder, and cast away their **cords** from us.

「主が天国の敵を討つ キリスト教の永遠の勝利」

40. Recitative (Tenor)

He that dwelleth in heaven
shall laugh them to scorn;
the Lord shall have them in derision.

天に住む神は
彼らをさげすみ笑うだろう。
主は彼らを嘲るだろう。
(詩編 2:4)

※ KJV 原文 He that **sitteth** in the heavens shall laugh: the Lord shall have them in derision. (天に座する神は)

※この後、詩編 2:5-8 は次のように続く

そして主は憤りをもって彼らに語り、激しい怒りをもって彼らを恐れ惑わせて言われる、「私はわが王を聖なる山シオンに立てた」と。私は主の詔をのべよう。主は私に言われた、「お前は私の子だ。今日、私はお前を生んだ。私に求めよ、私は諸々の国を嗣業として汝に与え、地の果てまでも汝の所有として与える。～」と。

→この主の言葉の締め部分の部分が次の 2:9 である。

41. Air (Tenor)

Thou shalt break them with a rod of iron;
Thou shalt dash them in pieces
like a potter's vessel.

お前は鉄の杖をもって彼らを打ち破るだろう。
お前は彼らを粉々に打ち砕くだろう、
陶工の(作った陶器の)器のように。
(詩編 2:9)

42. Chorus

Hallelujah!
for the Lord God Omnipotent reigneth.

ハレルヤ!
全能の主なる神が君臨される。
(ヨハネの黙示録 19:6)

The Kingdom of this world is become
The Kingdom of our Lord and of His Christ;
and He shall reign for ever and ever

この世の王国は
我らが主とそのキリストの王国となった。
そして彼は永遠に支配するであろう。
(ヨハネの黙示録 11:15)

King of Kings, and Lord of Lords.

諸王の王、諸君主の君主。
(ヨハネの黙示録 19:16)

※ KJV 原文 11:15

And the seventh angel sounded; and there were great voices in heaven, saying,

The **kingdoms** of this world **are** become the **kingdoms** of our Lord, and of his Christ; and he shall reign for ever and ever.
kingdoms と複数になっている。

PART III キリスト復活の奥義と讃美

「自分の復活と救済についての信仰」

43. Air (Soprano)

I know that my Redeemer liveth,
and that He shall stand
at the latter day upon the earth.
And though worms destroy this body,
yet in my flesh shall I see God.

私は知っている、私を贖う者は生きている。
後日、彼は
地の上に立たれるだろう。
そして、ウジ虫が私の身体を破壊しても
まだ、私は私の肉体の内でも神を見るだろう。
(ヨブ記 19:25-26)

For now is Christ risen from the dead
the first fruits of them that sleep.

というのも、今や、キリストは死から蘇ったのだ、
眠れる者の初穂として。
(コリント人への第一の手紙 15:20)

※ヨブ記 19:26 KJV 原文 And though **after my skin** worms destroy this body, (私の皮膚虫が私の身体を破壊した後も)

※第一コリント 15:20 KJV 原文冒頭は For ではなく But になっている。

46. Chorus

Since by man came death,
by man came also the resurrection of the dead;
For as in Adam all die,
even so in Christ shall all be made alive.

死が一人の人によって来たので
死者の復活もまた一人の人によって来たのだ。
というのも、アダムにあって全てが死ぬように
キリストにあって全てが生かされるのである。
(コリント人への第一の手紙 15:21-22)

※第一コリント 15:21 KJV 原文には、22 節の冒頭と同じく For がある。

「あらゆる人間の復活」

47. Recitative Accompagnato (Bass)

Behold, I tell you a mystery;
we shall not all sleep,
but we shall all be changed in a moment,
in the twinkling of an eye, at the last trumpet.

見よ、私はあなたに奥義を語る。
我々は皆、眠るのではない。
我々は皆、変えられるのだ。一時に、
一瞬きの間に、最後のラッパの時に。
(コリント人への第一の手紙 15:51-52)

※ KJV 原文では、Behold, I shew you a mystery (私は奥義を示そう)。また最後の trumpet は trump。

48. Air (Bass)

The trumpet shall sound
and the dead shall be raised incorruptible;
and we shall be changed.
For this corruptible must put on incorruption;
and this mortal must put on immortality.

ラッパが鳴ると
死者は朽ちない者として立ち上がり、
我々も変えられるだろう。
というのは、必ず、この朽ちる者は不朽を着、
この死ぬ者は不死を着るに違いないからである。
(コリント人への第一の手紙 15:52-53)

※ KJV 原文では、for the trumpet shall sound, と最初に for がある。

「死と罪の取り除き 終末の日の裁きにおける代弁者としてのメシア」

49. Recitative (Alto)

Then shall be brought to pass
the saying that is written,
Death is swallowed up in victory.

その時※、成し遂げられるだろう、
書かれた言葉が。
「死は勝利に飲み込まれた。※」
(コリント人への第一の手紙 15:54-55)

※ KJV 原文では、「この朽ちる者が不朽を着、この死ぬ者が不死を着る、その時」

So when this corruptible shall have put on incorruption, and this mortal shall have put on immortality, then ~

※ 「書かれた言葉」の内容は、次の二重唱の歌詞に続く。

50. Duet (Alto & Tenor)

O death, where is thy sting?
O grave, where is thy victory?
The sting of death is sin,
and the strength of sin is the law.

おお、死よ、お前のとげはどこにあるのか?
おお、墓よ、お前の勝利はどこにあるのか?
死のとげは罪であり、
罪の強さは律法である。
(コリント人への第一の手紙 15:55-56)

※ 最初2行(15:55)の KJV の翻訳はギリシア語聖書原典に忠実でない。ギリシア語に忠実な英訳 RSV は次の通り。

「O death, where is thy victory? O death, where is thy sting?」(死よ、お前の勝利はどこに? 死よ、お前のとげはどこに?)

KJV はルター訳の重訳になっている。ルターはこの部分を、前節から続く「書かれた言葉」=旧約聖書「ホセア書」に引きずられ、

「死よ、お前のとげはどこに? 地獄よ、お前の勝利はどこに?」と訳した。KJV は「地獄」を「墓」と微修正しただけである。

※この第一コリント 15:51-52, 54-55 の部分は、ブラームス「ドイツ・レクイエム」第6楽章の歌詞にもなっている。

上記のルターによる原典を改竄した誤訳については、「ドイツ・レクイエム」の拙訳・解説 PDF (下記 URL) を作成した際、

田川建三氏からご教示を受けた。

<http://classic.music.coocan.jp/pdf/deutsreq-txt.pdf>

51. Chorus

But thanks be to God,
who giveth us the victory
through our Lord Jesus Christ.

しかし、神に感謝すべきである。
神は我々に勝利を与えてくださる、
我らが主イエス・キリストを通じて。
(コリント人への第一の手紙 15:57)

52. Air (Soprano)

If God be for us, who can be against us.
Who shall lay anything
to the charge of God's elect?
It is God that justifieth.
Who is he that condemneth?
It is Christ that died,
yea rather, that is risen again,
who is at the right hand of God,
who makes intercessions for us.

神が我々の味方なら、誰が我々に対抗できよう。
誰が告発しようとするだろう、
神の選んだ者に対して？
人を義とするのは神なのだ。
人を罪有りと決定するのは誰か？
それは死んだ方、
いや、むしろ、再び甦った方、キリストである。
その方は、神の右手にあり、
我々のために取りなしをしてください。
(ローマ人への手紙 8:31,33-34)

「天上の幸福な人々によるメシアへの賛美」

53. Chorus

Worthy is the Lamb that was slain,
and hath redeemed us to God by His blood
to receive power, and riches,
and wisdom and strength,
and honour, and glory, and blessing.
Blessing and honour, glory and power, be unto Him
that sitteth upon the throne and unto the Lamb,
for ever and ever.

屠られた子羊、
その血で我々を神に購ってください、
その方は、力と富と
知恵と強さと
誉れと栄光と賛美を受けるにふさわしい。
賛美と誉れと栄光と力が、
玉座に座る方と、子羊とに
永遠にありますように。
(ヨハネの黙示録 5:12-13, 5:9)

※第12節は「天使たちは大声で言った」と始まり、上5行がその天使たちの言った内容である。slainはslay(虐殺する)の過去分詞。
ただし2行目は第12節には無い。「Worthy is the Lamb that was slain to receive power,～」と、1行目から3行目に直接つながる。

※2行目は、すぐ前の第9節から採られている。「4つの生き物と24人の長老たち」によって歌われた新しい歌
Thou art worthy to take the book, and to open the seals thereof: (あなたは書物を受け取り、その封印を解くのにふさわしい方です。)
for thou wast slain, and hast redeemed us to God by thy blood out of every kindred, and tongue, and people, and nation;
(あなたは屠られて、あなたの血で我々を神に購ってくださいましたのです。あらゆる血縁、言葉、民、国民の中から。)

※下3行は第13節後半。「私は天と地のあらゆる被造物がこう言うのを聞いた」、その聞いた言葉の内容である。

54. Chorus

Amen.

アーメン

<翻訳を終えて、あとがき>

チャールズ・ジェネンズ(1700-1773)による「メサイア」の歌詞編纂は、バッハの両受難曲のように、聖書の筋書き通りに事を進める、というものではない。イエスをテーマにしながらも、福音書はほとんど使わず、むしろ旧約の預言書から多くの文言を引いている。新旧聖書の文脈など無関係に、細切れにあちこちから引用している。「ユダヤ教の言う救世主とはイエスのことだったのですよ」というキリスト教ドグマの根拠は、そもそもこのように形成されたのであろうが、それにしても上手に文章をつなぎ合わせたものだ。

ところで、聖書のあちこちから文を拾ってきて上手に歌詞をまとめ上げた、という点は、先に翻訳したブラームス「ドイツ・レクイエム」(これは作曲家自身による編集)も同様である。この「ドイツ・レクイエム」第6楽章と「メサイア」第3部で、聖書の同じ箇所を歌詞にしている、ということが、私が「メサイア」の翻訳をしようと思いついた直接の動機であった。

今回、私はネット上で欽定訳聖書(KJV)の原文に1つ1つあたって(<https://www.biblestudytools.com/kjv/>)、それとの異同を確認しながら翻訳した。この作業の地道さは、私が学生時代の本業「中国文献史学」で、史書の文章を読む際に、儒教の様々な經典に引用元に当たる作業とよく似ている。KJVだけでなく、ルター訳ドイツ語聖書、ラテン語聖書ヴルガータ、英訳RSVにも当たった。(新約聖書はギリシア語ネストレもネットで見られるが、これについては田川建三氏による直訳を参照した。)

作業を終えての感想は2つ。1つは「英語はドイツ語・ラテン語よりも簡単だ」(当たり前!)。もう1つは、17世紀初頭の英訳KJVがいかにルター訳ドイツ語聖書からの影響を受けているかがわかって面白かった、ということだ。ルターという先駆者のおかげで、KJVの訳者は手抜き作業が可能だったのである。

© Kenichi Yamagishi 2018